



平成 31 年 4 月 19 日

各位

会 社 名 高千穂交易株式会社
代表者名 代表取締役社長 井出尊信
(コード番号 2676)
問合せ先 取締役執行役員
管理本部長 植松昌澄

通期業績予想の修正並びに特別損失(減損損失、関係会社株式評価損)の計上に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、平成 30 年 5 月 9 日に公表しました連結業績予想を修正するとともに減損損失及び個別決算における関係会社株式評価損の計上について、下記の通り、お知らせいたします。

記

1. 平成 31 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1 株当たり当 期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	22,500	1,200	1,200	800	86.34
今回修正予想 (B)	19,890	980	1,080	490	53.39
増減額 (B-A)	△2,610	△220	△120	△310	
増減率 (%)	△11.6	△18.3	△10.0	△38.8	
(ご参考) 前期実績 (平成 30 年 3 月期)	19,570	663	706	130	14.02

(修正の理由)

外資系を中心とした企業向け入退室管理システムの販売が好調に推移したことなどにより、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益ともに前年を上回り、増収増益になる見込みとなりました。しかしながら、セキュリティ商品類における商品監視システムやディスプレイセキュリティシステム、電子商品類における通信機器向けの半導体部品の販売が減少したことで計画にいたらず、また、Guardfire Limited(タイ)において、大型案件の受注を獲得したものの、売上計上が後ろ倒しになったことなどが影響し、売上高は当初予想を下回る見込みとなりました。

また、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、下記 2. のとおり、特別損失(のれん減損損失など)を計上することにより、当初予想を下回る見込みとなりました。

なお、配当予想につきましては変更ありません。

2. 特別損失（減損損失）の計上について

平成 26 年 11 月に取得しました Guardfire Limited（タイ）及び Guardfire Singapore Pte. Ltd.（シンガポール）（以下、「Guardfire 社」）の業績は、買収後の原油価格下落により業績が低迷しておりましたが、ASEAN 諸国における石油・発電プラントの建設計画の再開が進み、Guardfire Limited（タイ）において、数件の大型案件を獲得するなど、受注活動は好調に推移いたしました。しかしながら、売上高及び利益面において、計画未達成の状況にあることから、Guardfire 社ののれん等の固定資産について、将来の回収可能性を慎重に検討し、特別損失（のれん減損損失）1 億 84 百万円を計上することといたしました。

なお、当事業については、今後もグローバル事業の中核として、持続的な成長を目指してまいります。

3. 個別決算における関係会社株式評価損の計上

上記 2. の状況の中、Guardfire Singapore Pte.Ltd（シンガポール）の株式の実質価額が低下していることを鑑み、関係会社株式評価損（1 億 87 百万円）を特別損失（関係会社株式評価損）に計上する見込みであります。なお、Guardfire Limited(タイ)の株式の実質価格については問題ありません。

また、当該関係会社株式評価損は、個別決算において計上しているものであり、連結決算においては相殺消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

※上記の業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。

以上